

昭和初期、農業構造變動の「統計的」考察

——昭和四年『農業調査』結果による
耕地面積等の數值變化を中心に——

大場 正 巳

地面積等の調査結果である。

いまその「農業調査令」から主要点を抜萃すると、

第一条 農業調査ハ昭和四年度ニ於テハ耕地ニ付之ヲ行フ

第二条 前条ノ調査ハ農家ノ經營スル耕地ニ付昭和四年九月

一日午前零時ノ現在ニ依リ左ノ事項ヲ調査ス

一 地番

二 種類

三 面積

四 經營農家世帯主ノ氏名

五 自作地小作地ノ別

学校、試験場其ノ他農家ニ非ザル者ノ經營スル耕地ト雖

モ前項ニ準ジテ調査ス

第三条 調査ハ実地耕地ニ就キ之ヲ執行スルモノトシ耕地各

筆毎ニ之ヲ行フヲ例トス

と、以上第三条までにみられるように、田、普通畑、樹木灌木

栽培畑（桑、茶、果樹畑別）等の種類別、またその自作地小作

地別の一筆調査で、施行規則、細則についてみる限りではかな

りの厳密さが要求されている。

この調査結果が先の『農業調査結果報告』であり、以上につ

いての全國數値はもちろん、道府県別から都市町村別までの數

値が収録されている。

—

周知のように、内閣統計局編、昭和四年『農業調査結果報告』（昭和五年一月八日 東京統計協会発行）は、一九三〇—三一年度世界農業センサスへの参加を目的に、内閣統計局と農林省が農業調査計画要綱（耕地、生産、經營、家畜調査の四部からなる）を決定し、そのうち耕地に関する調査のみを「統計資料実地調査に関する法律」（大正十一年四月十九日 法律第五二号、改正昭和四年三月 法律第一号）にもとづく「農業調査令」（昭和四年四月二三日 勅令第九六号）等として、全國一七万五千人の農業調査員を動員して行なつたセンサス方式の耕

▲ノート▼

昭和初期、農業構造變動の「統計的」考察

またこれは、加用信文監修『日本農業基礎統計』（昭和三三年八月一日）の「農業センサスによる種類別土地面積」（同書七三頁）、「戦前・戦後の地目別小作地率」（同二〇〇頁以下）、「府県別累年基本統計」（同五九九頁以下）等として、全国ないし府県別数値が再録されている。

とくに、この「府県別累年統計」ではその解説で次のように述べている。

「昭和四年耕地調査、昭和一三年農家一斉調査 この二つの調査は毎年の八農林省統計報告規則Vおよび八農会報告Vとは別に、センサス方式をとって行なわれたものである。この調査の影響を受けて、或る県では『農林省統計表』の数値がこの年次からいかに変わっている場合がある。それは表式調査で固定していた数値が、センサス方式の調査によって実態がわかったので、にわかにな数値が飛躍して変化したものであろう」と。

「昭和四年耕地調査」とはいうまでもなく「農業調査」のことであり、またその解説は「昭和一三年農家一斉調査」と併せて行なわれているが、ここでは専ら前者にかかわらしめてのものとみておこう。

ところで上の数値飛躍について昭和四年（第六次）『農林省統計表』では、その「概要」で

「耕地面積 昭和四年末現在ニ於ケル国内耕地総面積ハ五、

八四八、七二六・六一ヘクタールニシテ之ヲ田ト畑トニ別テバ田三、一六六、一三五・五四ヘクタール、（五割四分）、畑二、六八二、五九一・〇七ヘクタール（四割六分）ニシテ前年ニ比シ総数ニ於テ一八六、四四五・一九ヘクタール（三分二厘）ヲ減少シ、田ニ於テ四四、五四六・八八ヘクタール（一分四厘）ヲ増加シ畑ニ於テ二三〇、九九二・〇七ヘクタール（八分六厘）ヲ減少セリ。然シテ斯クノ如キ著シキ移動ヲ示セルハ本年九月一日現在調査ノ農業調査ノ結果從來ノ誤調等ニ訂正アリタルニ因ルモノナリ」と、昭和四年以前の耕地面積数値に誤りのあったことを認めるが、肝心の「統計表」欄の「耕地面積」では、その表注「4」で、わずかに

「昭和三年末現在面積ニ第二表ノ昭和四年移動面積を加除シタルモノガ昭和四年末現在面積ニ一致セザルハ、昭和四年九月一日現在農業調査ノ結果昭和三年末以前ノ現在面積ニ移動ヲ生ジタルニ依ル」と表現したにとどまった。

たしかに、全国総耕地面積にみる昭和三年『農林省統計表』と『農業調査』の差はマイナス一八・七万町歩であり、それはわが国総耕地面積六〇〇万町歩の三%にすぎない。同様に小作地率についても昭和三年と四年『農林省統計表』での増加は一・九%であり、この限りでは「なほ大略の傾向を見る上には差支へないところである」（栗原百寿『日本農業の基礎構造』

八六頁)という叙述も、また先の昭和四年『農林省統計表』の「概要」ないし表注で、特別にこれにふれなかったこともうなづけよう。

しかし『日本農業基礎統計』もいうように、府県別段階の数値としては許容しうる以上の変化を示している。

総耕地面積についてみると北陸、東山、中国、四国、九州の各県ではほぼ軒並みに、また京都、大阪、兵庫、福岡などの都市部でも大幅に減少し、岩手県を除く東北地方、栃木、群馬の北関東では増加が著しく、畿密にはないが、日本北部地域では一般に増大し、西南部では減少し、この差引として、先の全国総耕地面積3%の減少があったということを銘記すべきであろう。

このように『農業調査』による数値変化は、田畑別、小作地別に、また地域別、県別に、あるいは郡市町村段階にまで下りて考察しようとした場合、そこに一つの断絶性をもつ、ということが指摘できそうである。

とくにこの『農業調査』は、先の「農業調査令」第二条にみたように耕地一筆毎の面積、自小作地別のみでなく、その筆毎の経営農家世帯主氏名の記入が要求されていることから、農家毎の集計も可能であり、町村段階ではそれがなされた結果としてか、昭和四〜五年頃を中心に自小作別あるいは経営耕地広狭

別農家戸数構成数値の「にわかな」変化をみたものもある。

ところがこうした統計数値の変化は、全国総耕地面積にみたように増減が相殺され、薄められ、また県統計書等では特別の注意がきかないことなどもあり、そして、さらに、ときあたかもこの時期が昭和恐慌への突入期でもあったことから、この数値変化を専ら恐慌による農業の構造変化に起因するかのよう把握されている例をみる。

改革前、東北地方農業構造の特殊性を巨細に分析した木下彰氏の「後進地域の農業構造」(新訂『日本農業構造論』所収、昭和三〇年五月)では、明治三六年以降の東北六県の田畑別自作小作地率を掲げ、近畿地方との対比において「東北地方における田の小作地割合は明治三七年以後ほぼ一貫して急速に増大しており、とくに昭和農業恐慌期において顕著である」として、日本農業発展の地域的不均衡、東北農業の後進性を説かれる(傍点引用者)。

その例証の一つとして、大正一二年四九・〇%、昭和二年五〇・四%、六年五五・二%と推移する田の小作地率を比較検証されるのであるが、『農業調査』結果にみる東北地方における田小作地面積の激増(変化)は、その考察のなかにどのように取り入れたのであろうか。

また埴遠一氏の「庄内平野における富農層形成をめぐる諸問

題」(『変革期の日本農業』第一部、一九六八年一月。『庄内平野における富農層の形成——(補足)富農層形成の基盤——』、昭和三年六月、等)もそうではないか、と思われる。

以下、わたくしもまた郡町村別考察の対象を庄内地方に求めるので、長文にわたるが、問題点について引用させていただこう。

それによれば「庄内平野農業の平均規模は、本土平野の最高位(二町)にあるといっても、地域により可なりの相異がある。それは技術段階ならびに階層分化の度合が地域的に異なるからである。そこで、庄内農業の段階と構成とを二つの特徴的な基本地帯——河北中心区(飽海郡平坦部)と赤川区(東田川郡西半および西田川郡東半)——について究明する必要がある」として、その考察の対象時期を昭和初期以降に限定し、その理由を「積極的には同期における(庄内平野農家の——引用者)平均規模が激動しているからである」と。

たしかにその平均規模は、飽海郡では昭和二年の一七〇畝から五年の一九二畝、昭和一二年の一七四畝へと拡大、縮小し、また東田川郡でも二〇四畝→二二〇畝→二二四畝と「急増」しあるいは「昭和二年の規模に復帰している」。

これをして埴氏は、「この復帰は平均規模における単なる回復であって、農業構成においては著しい変化がみられたのであ

る」と理解され、「この期においては一般的危機の衝撃もあって、土地所有と農業生産力との矛盾が鋭化し、農業変革のための主体的ならびに客体的諸要素を遊離させた。そこでは一方においては深まる矛盾の発現として農民闘争——土地の所有と非所有との対立——が激化し、他方では土地関係と生産力との結節をなす農民構成——自小作別構成にクロスする経営規模別構成——における変化が顕著にみられたのである」と解釈された。これ以下なお氏の叙述が続くように、庄内における小作争議件数は大正一一、一二、一三年の二、四、五件から、昭和二年には一挙に二七件へ、そして三年六四件、四年四七件、五年一四二件と激増する。

したがって、この時期における土地所有と非所有、あるいは農民層間における一定の対立が尖鋭化したことを否定することはできないであらう。

しかし先のように、埴氏のそれが庄内農家の平均耕作規模、自小作地率の変化等から問題が発せられているとすれば、後に『農業調査』結果が与えたであろう数値上の変化として具体的に検討するように、それはどうであらうか。

もちろん埴氏もいわれるように、この時期が「一般的危機の衝撃」のときでもあり、それによる構造変化がどうであり、また『農業調査』による数値変化がどうであったか、をここで確

定することはできない。しかし、にもかかわらず、こうした点の厳密な検討なくしては、事象の客観点分析はできず、その認識のための当然の前提である、と考えるからである。

二

まず全国道府県の数値変化を、総耕地面積、田面積、小作地面積、田小作地面積の順にみてゆこう。畑面積、自作地面積の変化は、以上の逆数として把握される。

その方法として第一に、『農業調査』前五年間の『農林省統計表』における耕地面積の推移、増減年率（なお、ここでは大正一・二と昭和三年間の増減面積を算出し、これを大正一・二年の数値で除して年率を出す、という方法をとった）を示し、第二に、昭和三年『農林省統計表』の数値と『農業調査』、ならびに昭和四年『農林省統計表』を対照して前者がいかに後者に影響を与えたかを、そして第三に、昭和四年以降の数値変化がどうであったか、を比較する。

以下、後掲附表Iによって、それぞれについて検討を加えよう。

総耕地面積 大正一・二と昭和三年における総耕地面積は、各地域（東京、神奈川、京都など都市部を含む）に分散する減少果一・二を数え、とくに高知のように四・六%の高い減少率を示す。

▲ノート▼ 昭和初期、農業構造変動の「統計的」考察

す県を含みながらも全国的には増加傾向を示していた。しかし、この高知県を除く各道府県の総耕地面積の増減はいずれも〇・五%内外でしかなかった。

だが、昭和三・四年には事情は明らかに異なる。それは『農業調査』結果といわず『農林省統計表』の耕地面積についてもそうである。

前掲『日本農業基礎統計』「府県別累年統計」の解説では、昭和四年『農林省統計表』の耕地面積等の数値変化は限られた数県にしすぎないかの印象を与えたが、そこでは増大傾向をみていたものが一挙に減少に転じ、あるいはその増減率はそれぞれ数倍ないし数十倍に及ぶ変化を、ほとんど全道府県にわたって示している。

まず『農林省統計表』によって地域別数値をみると、北海道、東北を除く各地はいずれも減少に転じ、四国、九州の減少率が特に著しく、全国的には三%の減少となった。

県別には高知県が、これ以前の減少率も高かったのであるが、ここに至って一挙に二八%を減じ、愛媛、熊本、岐阜県なども一〇～一五、六%も減少した。これらの県については具体的に、この数値変化の原因を追求しなければならないのではなからうか。

他方、北関東、岩手を除く東北各県、北海道では〇・五%未

萬の増減から三%余の増加を示すものもでてきた。

また滋賀や奈良、愛知、三重などでも増加率の高いものもある。

こうした昭和四年『農林省統計表』の総耕地面積の数値と『農業調査』のそれとは、調査時期のズレ——『農業調査』は先のように九月一日、『農林省統計表』は「年末現在」——による差異はあるとしても、その増減傾向、そして増減率は、昭和三年前のそれに比べて、全道府県について近似的である、ということができよう。

数値変化は、「或る県では」でなく、まさに全道府県にわたってあったわけである。そしてそれは上のように、専ら『農業調査』結果にもとづく変化とみてよいのではないか。

というのは、昭和三、四年の間に以上の大きな数値変化を示した耕地面積は、これ以降、昭和四年の数値を原点に、再び昭和三年以前の、あるいはそれよりも小さい増減率にかえるからである。

もちろん昭和四、九年は昭和恐慌が農村深部に滲透した時期でもあり、それがその増減率をむしろ小さくした、ということもありえようが、ここではその指摘のみにとめておこう。

田総面積 総耕地面積の大正二—昭和三年の全国増加率〇・一五%に対し、田はほぼこれに四倍する〇・五三%を示して

いる。とくに北海道、東北、北陸、北関東、南九州で著しかった。

他方、南関東、東山、東海、近畿の各地方では、総耕地面積で増加しながら田はむしろ減少していた。

この傾向は、昭和四年田面積数値——以下とくに断わらない限り、『農業調査』、昭和四年『農林省統計表』の耕地に関する統計数値をこのように表現する——では北海道など数県を除いて増幅して示されている。

東北では田の増加率は一〇倍に、北陸では六倍に、北関東、南九州でも十数倍というようにであり、一方、東山、東海、近畿、四国では逆に十倍以上の減少率を示した。

こうした大きな増減率の変化に示される田面積変化の内容は、どのように考えられるのであろうか。もちろん「表式調査で固定していた数値が、センサス方式の調査によって」変化した、と説明したとしても、それは何も明らかにしたことにはなるまい。

山形県の場合、それは実に六、七〇〇町歩、七%の田面積の増加であり、九・六万戸の総農家一戸当り七畝歩を増したことになる。この点については後に細かく検討するとして、この田面積の増加は、山形県の場合、水稲作付面積には反映されなかったと、みられる(第一表)。

第1表 水稻作付率の推移

	山形県			全 国		
	田面積	水稲作付面積	水稲作付率	田面積	水稲作付面積	水稲作付率
大正 12	91,740 4	91,162 4	99.4	3,066,518 7	3,006,906 5	98.1
13	92,195 6	92,007.9	99.8	3,082,715 2	3,004,686 9	97.5
14	92,828.3	92,068.7	99.2	3,102,011.9	3,017,490 3	97.3
15	92,944.0	92,194 2	99.2	3,118,506 2	3,020,988 9	97.2
昭和 2	93,017 3	92,544.0	99.5	3,129,766 7	3,038,326 1	97.1
3	93,650 1	92,708 1	99.0	3,147,601 9	3,055,095 9	97.1
4	100,645.5	93,861 0	93.3	3,192,555 5	3,074,955 6	96.3
5	100,652.6	95,010 9	94.4	3,204,230 8	3,104,787 0	96.9
6	100,508 9	94,824 0	94.3	3,211,907 7	3,114,676 0	97.0
7	100,508 7	94,938 4	94.5	3,219,935 4	3,122,686 8	97.0

注 1 『農林省統計表』より算出。

2 水稻作付率は、水稻作付面積を田総面積で除したものである

昭和三年以前、山形県の水稲作付率は、全国的に九十九%以上を示していた。ところが昭和四年に、小作地総面積の前掲「後進地域の農業構造」でもみたように、明治末～大正初期以降、西南地方諸県では自作地化傾向を、そして東北等の後進的諸県ではほぼ一貫して小作地化傾向を示し、とくに昭和初期において、農業恐慌の影響もあって顕著に小作地率が増進した、というのが、通説かようであった。

たしかに、大正末～昭和三年の小作地面積の増減率をみると、北関東、東北、そして南九州の一部で増加傾向をもつのに対し、近畿地方を中心に東海、中国、四国では減少している。しかしその増減いずれも、四国の年率二%の減少を除けば、一%以内

昭和三年以前、山形県の水稲作付率は、全国的に九十九%以上を示していた。ところが昭和四年に、小作地総面積の前掲「後進地域の農業構造」でもみたように、明治末～大正初期以降、西南地方諸県では自作地化傾向を、そして東北等の後進的諸県ではほぼ一貫して小作地化傾向を示し、とくに昭和初期において、農業恐慌の影響もあって顕著に小作地率が増進した、というのが、通説かようであった。

たしかに、大正末～昭和三年の小作地面積の増減率をみると、北関東、東北、そして南九州の一部で増加傾向をもつのに対し、近畿地方を中心に東海、中国、四国では減少している。しかしその増減いずれも、四国の年率二%の減少を除けば、一%以内

でしかなかった。

また、この時期以降、つまり昭和三―四年の変化を除く、昭和四―九年についてみると、むしろ恐慌の影響がより強く農業構造の内部にまで滲透し、とくに昭和六年の凶作をも含むこの時期の小作地面積の増加率は、東北地方ではわずかではあるが低下し、北海道、関東、東山、九州などで増加し、これが全国傾向を大正一二―昭和三年の小作地減少傾向から増加へと転換せしめた。

したがって、昭和初期東北地方における小作地率の「顕著」な増進、他方西南地方の自作地化のかなり急速な進行は、『農業調査』の自小作地別面積調査結果による数値変化に負うところが大であった、といわなければならないのではないか。

——ここで予め断っておくが、小作地面積、田小作地面積では、以上の総耕地面積表と違つて、『農業調査』と昭和四年『農林省統計表』の、昭和三年『農林省統計表』に対する増減面積でかなりの差があり、また、北陸地方のように増（『農業調査』、小作地総面積）減（『農林省統計表』）その方向を異にするものもある。この理由については明らかにしないが、『農林省統計表』の自作小作別面積が、「農産調査ノ自小作別割合ニ依リ按分算出」されたもの、という注記から、これが一定の影響を及ぼしてい

るのではなからうかとも推察される——。

以上の問題をはらみながらも、東北地方ではここで一挙に七八%（『農業調査』）、七・六%（『農林省統計表』）約三万町歩の小作地面積を増して、小作地率を昭和三年対比二・五九%（『農林省統計表』）高め、四国、九州では小作地面積を七一〇%減少した。また近畿地方では『農業調査』結果の数値はむしろこれ以前より小作地の減少率を低めたが、『農林省統計表』ではそれに二倍した。

第2表 山形県と大阪府における総小作地率および田小作率の推移

		(単位・%)			
		山形県		大阪府	
		小作地率	田小作地率	小作地率	田小作地率
大正	12	46.75	50.81	63.72	66.15
	13	46.80	51.19	63.69	66.23
	14	46.72	51.19	63.57	66.25
	15	47.23	51.76	62.73	65.64
昭和	2	47.70	52.12	62.78	65.48
	3	48.71	53.37	62.31	64.70
	4	53.23	60.16	60.80	63.55
	5	53.47	60.24	61.13	63.85
	6	53.56	60.01	60.22	62.88
	7	53.42	59.97	59.75	62.60
	8	52.61	59.12	59.96	62.90

注. 各年次『農林省統計表』より算出.

いま山形県および近畿地方で、昭和三、四年の間に小作地面積減少率の高い大阪府の、大正末以降の小作地率の推移をみると第二表のようである。

山形県の場合、大正末以降昭和三年にかけて年々小作地割合を高め、他方大阪では減少傾向を示してきたが、しかしそれは増減いずれにしても一%以内の動きでしかなかった。ところが昭和四年に至って山形県では一挙に四・五%小作地率を高め、大阪では一・五%小作地率が減少した。

とくに山形県の場合前掲表にみられるように、田小作地率の増加は六・八%におよび、また東北全体でも同様に四・九%増大している。

しかし前にも述べたように、昭和四、九年の東北地方の小作地面積増加率は、昭和三年以前よりも低いものでしかなかった。

このことは次のような問題点を含んでいるのではなからうか。つまり東北、北海道等を中心とする、昭和三、四年の間に、あるいは『農業調査』の結果として、その影響を強くうけた地方の小作地率の急増は、実は、これ以前からより高い小作地割合を示していたのであり、また逆に、西南諸県で小作地率を大きく減じた県は、これ以前からより強い自作地化傾向をもち、それが一筆調査の結果となって統計数値上も確定されたのではないかと。

しかし、ではそれが具体的に、いつ、いかなる事情の下でか、という点については明らかにしえない。

田小作地面積 小作地総面積、つまり畑を含む小作地総面積の場合と異なって田小作地面積は、『農業調査』の結果多くの府県で増加した。

『農林省統計表』によっても、小作地総面積で減少をみた府県は二九であったが、田小作地では東山地方、京都、大阪など一三府県にすぎない。水田を中心とする地的土地所有は、これ以前からより深いものがあつたのであり、自作地化傾向は畑を中心に進んでいたことがここでも確認されるわけである。

こうした田を中心とする小作地面積の増加、とくにその著しい北海道、東北地方、または各県の場合、それは統計数値上の問題として、農家の自小作別構成等に一定の影響を与えるものではなかつたであろうか。『農業調査』が耕地調査のみとして終つた結果、当然そこには何らかのギャップが生み出された、とみるべきであろう。この点については後に郡別ないし町村段階で検討を加えよう。

以上、総耕地面積、田総面積、小作地面積そして田小作地面積の、大正二、昭和九年間におけるそれぞれの増減のなかで、昭和四年『農業調査』結果が与えたであろう数値変化をそれぞれに則してみてきたのであるが、もちろんこれらを総体として

みることができるとはいうまでもない。

新潟県に例をとると、昭和三〜四年の間に総耕地面積では三

・五%の増加をみるが、田はこれを上廻る四%の増加を示した。

そして総小作地面積では〇・六六%（『農業調査』）あるいは一・一三%（『農林省統計表』）の減少があったが、水田の小作地面積はむしろ大きく八・一七%（『農業調査』）、五・七%（『農林省統計表』）増加した、あるいは昭和三年以前にもこうした数値を示していた、というようにである。

ここでは開田化傾向と、その水田に対する地主支配は、従前の『農林省統計表』が示していたより以上に強いものがあつたのであり、恐慌直下ではむしろ田の小作地面積は微減傾向をさえもつた、と。

三

以上で全国の地方別、府県別についての考察をおわり、次に『農業調査』結果が都市町村段階では耕地面積、自小作地面積数値にどのような変化を与えたか、そしてまたそれらの結果として、農家の自小作別構成あるいは耕地耕作規模別構成数値に影響を与えることがなかつたかどうか、前述のように事例を主として山形県下庄内地方に求めながら附表Ⅱを中心に検討してみよう。

もちろん、ここでも大正末〜昭和初期の統計数値の変化の大きいから、それを類推するにすぎないということも前のとおりである。

山形県の場合『農林省統計表』によれば、大正二〜昭和三年の総耕地面積の年増加率は〇・三六%、四八〇町にすぎなかつた。ところが同じく『農林省統計表』の昭和三年と四年とでは実に五、〇六五町、三・七%と平年の一〇倍以上の増加を示した。この増加面積は『農業調査』結果の五、〇八二町とほぼ等しいものであり、しかもこれ以降昭和四〜九年の増加率は〇・一三%と、昭和三年以前よりも低下する。『農業調査』結果の与えた影響は歴然たるものがあろう。

同様にこれを田面積についてみると、昭和三年以前の年増加率〇・四八%に対し昭和四年には七・一五%と著増し、昭和四〜八年には同じく〇・一八%の増加にとどまる。

小作地面積等数値の変動はより激しく、総小作地面積では昭和三年以前の二・一六%に対して、昭和四年には一三・六%も増加して、先の第二表に示したように小作地率を一挙に四・五%も増進した。しかしこれ以降昭和九手にかけての小作地面積の増加は年率一・一%の低いものでしかなかつた。

田の場合、小作地面積の増加率は北海道の二三・四%、宮城県の一・五%につぐ二〇%を昭和三〜四年の間に示した。し

かも昭和四〇九年では山形県の小作面積は〇・〇四%とわずかではあるが減少傾向を示す。

もちろんここでの昭和三年対比での四年の増加という場合、それはあくまでも統計数値上の問題であって、その事実はこちら以前に発生存在し、これがここで確定されたものであろう、という点については前述のとおりである。

農家平均耕作規模の拡大　ところで以下は『山形県統計書』によるわけであるが、同書昭和四年耕地面積等統計は、『農業調査』の数値が「九月末日、現在」（「九月一日」の誤りであろう——筆者）と注記して掲載されるのみで、『農林省統計表』にみる年末現在数値の記載はない、という点、また後掲附表「山形県表」の町村段階での耕地面積等の推移をみると、それは増減年率としてよりは実数の変化として考察した方がより実感的であり、増減率は一応の参考としてみていただきたい。また表注のように町村別統計は大正一五年以降しか記載がない、という三点についてあらかじめ断わっておこう。

それによれば、山形県内についても全国表でみたと同様に地域によって、さらに町村によって耕地面積の増減に大きな差がある。

まず地域別にみると、昭和三〇四年間の総耕地面積の増加率は庄内地方が最も高く、また田面積についても同様である。

また小作地面積の増加率は最上、置賜地方に高いが、田小作地面積の増加率では西田川郡の二六%がもっとも高い。

この庄内地方の総耕地面積、田面積の増加率はこれ以前、つまり大正一五〇昭和三年においても他地方にくらべて高いのであるが、これは大正期昭和初期にかけて完成する耕地整理による採草地、荒蕪地の耕地化が影響しているのではないかとみられる。

しかしそれにしてもこの増加は庄内地方の総耕地面積四・五万町歩の〇・五%程度であり、昭和四年の三、四六九町歩、七・七%の増加とは明らかに性格を異にする。

こうした耕地面積の拡大は、他方でこれに見合う農家戸数の増加がないかぎり、当然のことながら数値上のことではあろうが、一農家当り耕作規模の拡大として反映する。

第三表によって、大正一五年を一〇〇とする庄内農家戸数の推移をみると、東田川村では昭和四年一〇一・一、六年一〇三・六、八年一〇六・〇であり、飽海郡では昭和五年までは減少傾向にあり、七年に至って一〇一・三、一〇年一〇二・七である。

前掲書において埴氏が述べられた、昭和初期庄内農家「平均規模」拡大の理由は、農業構造の変動によるよりはむしろ、直接的にはこの統計数値上の変化においてみるべきではないか。

第3表 庄内農家1戸当り耕地面積，小作地割合

	東田川郡			飽海郡		
	耕地面積	農家戸数	1戸当り耕地面積	耕地面積	農家戸数	1戸当り耕地面積
大正15年	19,678.8	9,594	2.05	14,542.2	8,328	1.75
昭和 2	19,800.7	9,669	2.04	14,228.2	8,307	1.71
3	19,886.8	9,574	2.08	14,579.5	8,309	1.75
4	21,677.1	9,698	2.24	15,592.3	8,240	1.89
5	21,728.6	9,861	2.20	15,564.9	8,099	1.92
6	21,730.5	9,885	2.20	15,539.5	8,311	1.87
7	21,699.5	9,937	2.18	15,543.6	8,352	1.86
8	21,460.1	10,166	2.11	14,787.1	8,101	1.83
9	21,238.7	10,250	2.07	14,731.9	8,155	1.81
10	21,316.6	10,230	2.08	14,626.2	8,197	1.78
	自作地面積	小作地面積	小作地率	自作地面積	小作地面積	小作地率
大正15年	9,294.8	10,384.0	52.7%	8,038.5	6,504.7	44.7%
昭和 2	9,270.7	10,530.0	53.2	7,704.9	6,523.3	45.8
3	9,232.5	10,654.3	53.6	7,703.8	6,875.7	47.2
4	9,474.6	12,202.5	56.3	7,886.4	7,705.9	49.4
5	9,405.2	12,323.4	56.7	7,968.9	7,596.0	48.8
6	9,339.0	12,391.5	57.0	7,944.1	7,595.4	48.9
7	9,174.1	12,525.4	57.7	7,956.6	7,587.0	48.8
8	9,259.6	12,200.5	56.9	7,936.4	6,850.7	46.3
9	9,221.8	12,016.9	56.6	7,768.4	6,963.5	47.3
10	9,273.6	12,043.0	56.5	7,707.9	6,918.3	47.3

注. 『山形県統計書』より作成. なお念のために, 自作地面積も記載しておく.

▲ノット▼ 昭和初期、農業構造変動の「統計的」考察

一戸当り耕地面積は東田川郡で昭和三〜四年に一・六反を、そして飽海郡でも一・四反を増している。

以上は郡別平均数値であり、後掲飽海郡町村別表のように耕地面積、田面積の増減差はそこにおいてより著しい。平田郷などの平坦村よりも日向村、蕨岡村などの山村、それに砂丘寄りの遊佐郷等での増加率は高い。日向村では一農家平均三反、蕨岡では二反を、西遊佐村では一町九畝から二町九畝へと実に一町歩を増している。

とくにこうした山寄りの村、砂丘地寄りの村では水田の増加率が高く、平坦村——ここでは耕地整理等が完成し耕地面積が確定されていたことに

第4表 庄内地方の自小作別、耕作規模別農家の推移

(単位 戸)

	東田川郡			飽海郡									
	自作農	自小作農	小作農	自作農	自小作農	小作農							
自小作別農家構成	大正15年	1,846	4,638	3,110	1,926	3,874	2,183						
	昭和 2	1,957	4,622	3,090	1,924	3,882	2,179						
	3	1,872	4,683	3,019	1,941	4,243	1,826						
	4	1,791	5,040	2,867	1,932	4,196	1,817						
	5	1,670	5,018	3,173	2,071	4,056	1,687						
	6	1,674	4,894	3,317	2,239	4,087	1,719						
	7	1,656	4,931	3,350	2,252	3,948	1,886						
	8	1,686	5,001	3,479	2,143	4,057	1,901						
	9	1,725	4,949	3,576	2,041	4,156	1,958						
	10	1,712	5,080	3,438	2,011	4,200	1,986						
		~5反	5~10	10~20	20~30	30~50	50~	~5反	5~10	10~20	20~30	30~50	50~
耕作規模別農家構成	大正15年	1,810	1,557	2,333	2,098	1,596	200	2,372	1,702	1,437	1,245	1,074	153
	昭和 3	1,782	1,602	2,395	2,080	1,527	188	2,353	1,542	1,537	1,265	1,054	164
	4	1,756	1,602	2,463	2,182	1,541	154	2,272	1,648	1,560	1,268	1,040	157
	5	1,957	1,620	2,395	2,109	1,655	161	2,093	1,608	1,579	1,288	1,051	195
	8	2,033	1,620	2,393	2,185	1,761	174	2,310	1,446	1,699	1,364	1,112	170

注. 前掲表に同じ

よってか、微増減にとどまった。

以上のように総耕地、田面積の増加は農家一戸当り耕作規模を拡大させたが、しかしそれは多く小作地面積の増加としてであった、とみられる。

大正一五・昭和三年に、庄内地方の小作地面積は年率二・五%と高い増加率を示したが、昭和四年にはこれよりはるかに高い一四・六%を増した。飽海郡ではこれよりやや低い一二・六%の増であるが、しかし前と同様これは平坦部での微増、また西平田、東平田村の減少が作用した結果であり、山村的地帯では総耕地面積の増加を上廻る小作地面積の増大があった。大沢村、日向村では二倍以上に、そして遊佐郷でも四〇〜七〇%増加した。

自小作別、規模別農家構成の変化 こうした総耕地面積、またとくに著しい小作地面積の増加は、町村等の自小作別、経営規模別農家構成数値に一定の影響を与えなかったかどうか。以下これについて考察してみよう。

庄内地方の郡別自小作別、耕地規模別農家数の推移は第四表のようである。

東田川郡についてみると、昭和四年に自作農八

一戸、小作農一五二戸を減じ、自小作農が三五七戸を増し、飽海郡では昭和四年に一、八一七戸であったものが五年には一三〇戸を減じて一、六八七戸と、他の年次間の推移とはやや異なる動きを示しているかのようでもある。

また耕地規模別農家戸数の動きも三町歩以上農家の増加数、例えば東田川郡の三、五町層では四、五年に一一四戸を増し、また飽海郡では五町以上層が四、五年間に三八戸とやや高い増加数を示している。

しかし以上は、いずれにしても他の年次変化でこれに近いものもあり、これが直接に『農業調査』の影響によるとはいいたくない。もちろん当初にみたように『農業調査』そのものが耕地面積等を対象としたものであり、その限りでは当然のことである、といえる。

したがって農家の自小作別、耕作規模別構成変化等としては間接的に、例えば町村段階で小作地面積が増し、これと自小作別農家構成の間に矛盾が露呈するなどの結果として、その再構成が行なわれる場合があったらうなどとして考えられる。

したがって以下町村段階事例を求め、昭和初期、庄内農業構造変動の内容といわれるもの的一端に迫ってみよう。

東田川郡、飽海郡のなかで昭和四年以降に、三町歩以上農家戸数の変動の大きい主な町村を示すと第五表のごとくである。

第5表 庄内における3町以上農家戸数の動向 (単位 戸)

	3~5 町層						5町以上層						
	大正 15	昭和 3	4	5	6	8	大正 15	昭和 3	4	5	6	8	
東田川郡	泉村	57	59	59	107	88	92	-	-	-	11	11	11
	渡前村	124	120	105	105	107	112	10	9	13	13	12	12
	藤島町	111	93	97	101	92	118	18	25	19	16	21	17
	立谷沢村	22	27	27	21	21	21	-	-	-	-	-	-
	狩川村	28	28	28	98	73	74	12	12	12	9	3	7
	八榮里村	54	34	28	49	58	59	10	37	12	9	10	6
飽海郡	常万村	58	53	65	65	65	56	16	11	9	9	9	11
	内郷村	24	24	17	39	39	38	13	13	5	1	1	2
	田沢村	25	25	25	31	52	50	6	6	6	41	26	24
	南平田村	90	88	88	88	46	46	5	8	8	8	8	8
	東平田村	93	93	93	64	85	85	10	10	10	10	10	10
	中平田村	153	163	155	150	147	132	15	12	11	17	23	24
	本楯村	107	90	90	109	101	103	4	5	5	5	7	6
西荒瀬村	15	15	15	15	65	74	6	6	6	6	14	10	
蔵岡村	46	59	64	60	85	46	1	3	3	6	9	9	

注 前掲表に同じ

東田川郡泉村では四～五年に三～五町農家数が二倍となり、五町以上層一戸が突然に生れている。飽海郡東平田村では昭和四～五年に三～五町農家が九三戸から六四戸に減少し、中平田村では五町以上農家が昭和四年の一戸、五年一七戸、六年二三戸へと急増している。

もちろんこれらの農家戸数の数値は一年次の絶対数としてはおかしなものもあり、その意味で注意を要するし、また昭和三～四年の変化としてよりは四～五年、五～六年の変化としてあらわれている。この後者については、町村段階で『農業調査』の耕地一筆表を名奇的に、しかも恣意的なものとして集計する場合、当然町村間に時間的ズレも起こりえよう。そしてこの時間的ズレ、また各町村間の階層別増減の相殺の結果として、郡別表では明瞭な変化を示さない、ということも先の場合考慮する必要がある。

以上を事例的に四ヶ村について『農業調査』を中心とする耕地面積、農家構成の変化として示せば第六表のごとくである。

これらの村はいずれも総耕地、なかでも田面積においてかなりの増加があり、とくに田小作地面積において大きく増加している。

泉村では四～五年に自作農が減少し、自小作、小作農が増加、狩川村では自小作農が著減して小作農が増加した。しかし飽海

郡内郷村では小作地面積の増加にもかかわらず小作、自小作農が減り自作農が増えるという逆の傾向を示すものもある。

しかし農家の規模別構成では、内郷村、西荒瀬村の昭和五、六年の変化は激しい。

もちろん再三述べるように、この変化のなかには本来的な農業構造の変動にもなる農家構成の変化もある。しかし逆に先の耕地面積数値の変化にもなる変動もまた否定することはできない。

そしてこれらの村における農業構造に関する諸統計は、その両者を含みながら、この時点以降にはじめて統計数値としての意味をもつようになるのではあるまいか。

四

以上で、昭和四年『農業調査』結果が『農林省統計表』、『山形県統計書』の耕地面積等、そしてまた農家の階層別構成に与えたであろう影響についての考察をおわる。

ここでは先の木下氏の、また通説化していたかの、昭和初期農業恐慌による東北地方小作地面積の顕著な増加といわれるもの内容が、実はかなりの程度に『農業調査』結果の数値変化にもとづくものではないか、という点、また逆に、この時期の西南日本での小作地率の減少は、実はこれ以前のより強い自作

第6表 『農業調査』を中心とする村別耕地面積，農家構成の変化

▲ノード▼ 昭和初期、農業構造変動の「統計的」考察

		東田川郡			飽海郡								
		泉村		狩川村	内郷村		西荒瀬村						
昭和3年に『袋結』に対する『調査』結果の増減率(%)	総耕地面積	+12.371		+7.525	+7.833		+3.234						
	小作地面積	-3.525		+28.180	+11.192		+36.511						
	田面積	+33.612		+10.845	+12.592		+7.073						
	田小作地面積	+20.329		+35.537	+20.965		+52.763						
別家戸数の変化(戸)	昭和3年	269	135	192	53	342	129	39	265	99	52	275	124
	4年	305	140	153	55	363	130	43	137	130	52	275	124
	5年	185	209	201	69	40	238	243	72	35	52	275	128
	6年	164	200	213	46	40	238	241	73	36	135	222	92
2町以上家戸数の変化(戸)	昭和3年	193	59	-	107	28	12	12	24	13	34	15	6
	4年	195	59	-	110	28	12	11	17	5	34	15	6
	5年	102	107	11	104	98	9	62	39	1	34	65	6
	6年	155	88	11	119	73	3	63	39	1	82	74	14
	8年	168	92	10	111	74	7	63	38	2	85	74	10
	10年	145	120	12	102	91	6	62	36	3	84	63	16

注. 前掲表と同じ。

地化傾向の所産であったのではないかと
いえそうである。では、農業恐慌は東北
地方の農業構造に具体的にどのような影
響を与えたのか、残された問題の第一点
である。

第二に、埜氏の、庄内地方農業構造分
析のなかでの、昭和二～五年にかけての
農家の平均耕作規模拡大についての問題
は、以上で幾分かきらかになった。しか
し、昭和五～一二年における、昭和二年
の経営規模への「復帰」はどう考えられ
るのであろうか。

以下これについて若干の考察を加えて
みよう。農家の平均耕作規模の変動は二
つの要因、つまり一は農家戸数の、二は
総耕地面積の変動によって変化しよう。

前者については先の第三表のように、
飽海郡では昭和四年までむしろ減少傾向
にあり、庄内全体としてても大正二五
年を一〇〇とする指数は同年一〇〇・六
四にすぎなかった。ところがこれ以降、

とくに昭和八、九年にはそれぞれ一%以上増加し、昭和一〇年には一〇・五・五四、昭和四一―一〇年間に九〇〇余戸の増加を示している。

これは庄内地方に限らず県下の一般的傾向であって、農業恐慌は一方で農家経済の破綻をおしてその流出を促進する方向をもつと同時に、他方では、現実的にはその滞留を強めるという相矛盾する形をとって作用したのではなからうか。

これが平均耕作規模縮小理由の第一点であり、第二はこの間における総耕地面積一、〇〇〇町歩余の実面積の減少である。

これを飽海郡の村別についてみても平田郷でやや増加をみてものがあつた以外は軒並みに減少し、とくにその九〇%余が水田での減少でもあり、水田小作地面積の減少である。

これが小作地減、自作地面積の増加であれば瑠氏の説かれるように地主反攻に対する中経営層の自作化傾向としてとらえられるであろうが、ここでは自作地もまた減少している。これはどう考えたらよいのであろうか。

『昭和一三年農家一斉調査』による町村別数値等がこの間の経緯をとく鍵とならうが、まだそれを探してはいない。

〔以下附表〕

附表I 昭和4年『農業調査』を前後する時期の耕地面積等の変化〔全国道府県表〕

(I) 総 耕 地 面 積

	大正12~昭和3年における増減率 (%)	昭和3年~農業調査		昭和3年~昭和4年		昭和4~8年における増減率 (%)	
		増減実数 (町)	増減率 (%)	増減実数 (町)	増減率 (%)		
全 国	+0 154	-187,368.8	-3 079	-188,136.7	-3.092	+0 048	
北海道	-0 458	+11,676.2	+1 446	+11,184.6	+1 385	+0 301	
東北	青森	+0 649	+3,600.3	+2 837	+3,676.3	+2 897	+0 353
	岩手	-0 021	-4,420.2	-3 073	-4,382.8	-3 047	+0 567
	宮城	+0.503	+5,523.6	+3 871	+5,233.2	+3 869	+0 757
	秋田	+0 289	+4,792.0	+3 449	+4,860.5	+3 498	-0 013
	山形	+0 358	+5,081.6	+3 729	+5,065.0	+3 718	+0 126
	福島	-0 525	+634.1	+0 334	+617.2	+0 325	+0 087
計	+0 161	+14,924.1	+1 713	+15,069.4	+1 730	+0 297	
北陸	新潟	+0.028	-8,729.4	-3 494	-8,647.6	-3 461	+0 194
	富山	+0 088	-5,110.4	-5 351	-5,165.3	-5.372	-0 078
	石川	+0 483	-5,800.0	-7 449	-5,718.8	-7 344	-0 378
	福井	+0 130	-236.4	-0 382	-248.2	-0 401	+0 163
計	+0 124	-19,876.2	-4 092	-19,779.9	-4 072	+0 048	
関東	茨城	-0 011	-7,031.8	-3 170	-6,986.5	-3.149	+0 324
	栃木	+0 261	+5,943.4	+4 325	+5,964.9	+4 341	+0 158
	群馬	+0 221	+2,025.3	+1 816	+2,044.4	+1 833	+0 160
	埼玉	+0 139	+1,737.1	-1 054	-1,728.5	-1.049	-0 017
	千葉	-0 235	+2,632.5	+1.395	+2,626.1	+1.391	+0 156
	東京	-0 643	-4,934.3	-0 876	-5,040.0	-0 894	-0 631
	神奈川	-0 638	-3,072.8	-0 418	-3,118.2	-0 424	-0 277
計	-0 053	-6,174.8	-0.647	-6,237.8	-0.654	+0.091	
東山	山梨	-0 551	-4,599.2	-8 043	-4,608.7	-8 060	+0 309
	長野	+0 341	-6,772.8	-3 814	-6,809.4	-3 835	+0 212
	計	+0 116	-11,372.0	-4 844	-11,418.1	-4 864	+0 230
東海	岐阜	+0 265	-12,152.0	-10 635	-12,121.9	-10 608	+0 102
	静岡	+0.412	-4,425.4	-3 233	-4,371.4	-3 193	+0 040
	愛知	+0 228	+1,970.5	+1.213	+1,942.8	+1 196	-0 261
	三重	+0.056	+123.5	+0 119	+91.6	+0 088	-0 046
計	+0.249	-14,483.4	-2.797	-14,458.9	-2 792	-0.062	

▲ノート▼

昭和初期、農業構造変動の「統計的」考察

(前頁よりつづき)

	大正12~昭和3年における増減年率 (%)	昭和3年農林省統計~農業調査		昭和3年農林省統計		昭和4年農林省統計		昭和4~8年における増減年率 (%)
		増減実数(町)	増減率 (%)	増減実数(町)	増減率 (%)	増減率 (%)		
近畿	賀 志	+0 106	+2,763 8	+3.609	+2,762 5	+3.607	-0 135	
	京 都	-0 312	-2,482 7	-3.936	-2,494 3	-3.954	-0 235	
	大 阪	+0 125	-3,400 2	-5.247	-3,348 2	-5.168	-0 780	
	兵 庫	+0 226	-5,959 3	-4 314	-6,058 5	-4 385	-0 042	
	奈 良	+0 088	+1,654 8	+3 784	+1,660 8	+3 797	-0 250	
	和歌山	+0 090	+907 3	+1 865	+883 0	+1 815	+0 033	
	計	+0 081	-6,516 3	-1 498	-6,594 7	-1 516	-0 320	
中国	鳥 取	+0 274	+1,162 3	+2 325	-1,175 6	+2 352	-1 064	
	島 根	+0 112	-9,540 8	-10 338	-9,542 4	-10 339	-0 065	
	岡 山	+0 114	+206 5	+0 164	+212 9	+0 170	-0 339	
	広 島	-0 113	-1,873 6	-1 669	-1,987 8	-1 771	+0 004	
	山 口	-0 477	-2,816 9	-2 555	-2,910 3	-2 639	-0 061	
		計	-0 058	-12,862 5	-2 623	-13,052.0	-2.662	-0 228
四国	徳 島	+0 186	-3,533 7	-6 297	-3,526 7	-6 284	+0 134	
	香 川	+0 035	-159 8	-0 313	-167 2	-0 328	+0 191	
	愛 媛	-0 412	-18,014 1	-16 674	-18,029 5	-16 688	+0 228	
	高 知	-4 635	-26,063 9	-27 976	-26,074.3	-27.987	+0 114	
		計	-1.761	-47,771 5	-15 495	-47,797.7	-15.503	+0 173
九州	福 岡	+0 859	-12,827 5	-8 186	-12,814 0	-8 178	-0 037	
	佐 賀	+0.062	-1,711.0	-2 349	-1,713 4	-2 352	+0 281	
	長 崎	+0 154	-3,717 7	-4 063	-3,726 1	-4 073	+0.166	
	熊 本	+1 220	-26,066.3	-14.334	-26,355 1	-14 493	+0 230	
	大 分	+0.332	-6,221 0	-6.337	-6,227 4	-6.343	+0.048	
	大 宮	+0.451	-6,940 5	-6 964	-6,761 9	-6 785	+0 267	
	鹿 児 島	-0 508	-33,504.9	-15 496	-33,514 4	-15 501	+0 258	
	計	+0 355	-90,988 9	-9.923	-91,112.3	-9 937	+0.171	
沖 縄	-1 629	-3,923 8	-6 148	-3,939.6	-6.173	+0 114		

注. 沖縄は大正13~昭和3年の増減年率である. 以下同じ.

(II) 田 総 面 積

▲ノート▼

昭和初期、農業構造変動の「統計的」考察

一六八

	大正12~昭和3年における増減年率 (%)	昭和3年~農業調査		昭和3年~昭和4年		昭和4~9年における増減年率 (%)	
		昭 和 3 年 農 林 省 統 計 増 減 実 数 (町)	増 減 率 (%)	昭 和 3 年 農 林 省 統 計 増 減 実 数 (町)	昭 和 4 年 農 林 省 統 計 増 減 率 (%)		
全 国	+0.529	+44,615.8	+1.417	+44,878.9	+1.426	+0.162	
北 海 道	+9.540	+15,859.4	+9.090	+16,466.5	+9.438	+2.342	
東 北	青 森	+0.787	+4,396.5	+6.562	+4,531.0	+6.763	+0.199
	岩 手	+0.164	+4,118.7	+7.243	+4,138.6	+7.278	+1.280
	宮 城	+0.623	+4,476.4	+4.958	+4,476.4	+4.958	+1.167
	秋 田	+0.573	+8,686.4	+8.112	+8,680.6	+8.107	-0.010
	山 形	+0.476	+6,723.0	+7.158	+6,712.1	+7.146	+0.175
	福 島	+0.467	+2,385.8	+2.366	+2,374.2	+2.355	+0.026
計	+0.525	+30,786.8	+5.967	+30,912.9	+5.991	+0.439	
北 陸	新 潟	+0.435	+3,966.9	+2.244	+3,955.5	+2.237	+0.175
	富 山	+0.081	+1,201.7	+1.482	+1,153.9	+1.423	-0.284
	石 川	+0.295	+398.4	+0.715	+340.9	+0.612	-0.691
	福 井	+0.237	+1,373.2	+2.779	+1,366.1	+2.764	-0.073
計	+0.306	+6,940.2	+1.912	+6,816.4	+1.878	-0.087	
關 東	茨 城	+0.257	+899.1	+0.955	+863.0	+0.917	+0.145
	栃 木	+0.403	+5,746.9	+7.989	+5,737.8	+7.977	+0.109
	群 馬	+0.115	+1,359.9	+4.066	+1,372.0	+4.102	-0.049
	埼 玉	-0.140	+1,043.1	+1.545	+1,054.2	+1.561	+0.012
	千 葉	+0.043	+3,975.3	+3.728	+3,961.2	+3.715	+0.006
	東 京	-2.402	-1,898.0	-14.612	-1,919.6	-14.778	-1.365
	神 奈 川	-0.594	-846.7	-3.659	-879.9	-3.802	-0.672
計	+0.004	+10,279.6	+2.509	+10,188.7	+2.486	-0.019	
東 山	山 梨	-0.091	-1,748.6	-8.761	-1,750.2	-8.769	+0.544
	長 野	-0.620	-4,651.4	-6.336	-4,671.4	-6.363	+0.943
	計	-0.509	-6,400.0	-6.854	-6,421.6	-6.877	+0.860
東 海	岐 阜	+0.045	-3,018.3	-4.550	-2,975.3	-4.485	+0.327
	静 岡	-0.147	-1,697.6	-2.680	-1,672.1	-2.639	-0.170
	愛 知	-0.004	-872.9	-0.860	-887.9	-0.875	-0.219
	三 重	-0.551	-2,497.9	-3.399	-2,518.2	-3.427	+0.205
	計	-0.158	-8,086.7	-2.654	-8,053.5	-2.644	+0.009

(次頁へつづく)

(前頁よりつづき)

		大正12~昭和3年における増減率	昭和3年~農林省統計		昭和3年~農林省統計		昭和4~9年における増減率
		(%)	増減実数(町)	増減率(%)	増減実数(町)	増減率(%)	(%)
近畿	滋賀	+0.129	+2,921.4	+4.457	+2,914.7	+4.446	-0.066
	京都	-0.318	-2,967.3	-6.566	-2,967.7	-6.567	-0.077
	大阪	+0.000	-2,445.5	-4.660	-2,411.2	-4.594	-0.729
	兵庫	+0.031	-1,210.1	-1.085	-1,310.5	-1.175	-0.546
	奈良	+0.070	+296.2	+0.888	+277.0	+0.830	-0.221
	和歌山計	-0.395	-2,278.1	-6.913	-2,277.1	-6.910	+0.117
中国	鳥取	+0.139	-849.0	-2.473	-857.4	-2.498	-1.380
	島根	-0.011	+528.3	+0.933	+527.9	+0.932	-0.276
	岡山	+0.057	+170.8	+0.191	+220.7	+0.247	-0.418
	広島	+0.002	-68.6	-0.089	-69.9	+0.091	-0.006
	山口	-0.061	+3,104.2	+3.853	+3,003.3	+3.727	-0.254
	計	+0.013	+2,885.7	+0.855	+2,824.6	+0.837	-0.356
四国	徳島	-0.095	-713.9	-2.485	-714.6	-2.488	+0.018
	香川	-0.059	-491.2	-1.231	-497.9	-1.247	-0.003
	愛媛	-0.444	-1,749.4	-3.703	-1,717.6	-3.636	-0.046
	高知	-0.363	-2,163.1	-5.986	-2,168.7	-6.002	+0.195
	計	-0.259	-5,117.6	-3.367	-5,098.8	-3.354	+0.033
九州	福岡	+0.264	-3,708.0	-3.168	-3,626.7	-3.098	-0.143
	佐賀	+0.109	+1,155.2	+2.152	+1,154.1	+2.149	+0.162
	長崎	+0.156	+418.3	+1.234	+411.2	+1.213	-0.014
	熊本	+0.244	+1,796.8	+2.297	+1,561.8	+1.991	+0.171
	大分	+0.361	+537.6	+0.928	+527.0	+0.910	+0.022
	宮崎	+0.604	+1,179.3	+2.526	+1,213.3	+2.599	+0.102
	鹿児島計	+0.163	+2,830.2	+4.663	+2,834.3	+4.670	+0.112
沖繩	+0.267	+4,209.4	+0.939	+4,075.0	+0.909	+0.042	
沖	繩	-0.931	-1,057.4	-14.228	-1,056.5	-14.216	-0.200

(Ⅲ) 小 作 地 総 面 積

	大正12~昭和3年における増減年率 (%)	昭和3年~農林省統計		昭和3年農林省統計~昭和4年農林省統計		昭和4~9年における増減年率 (%)	
		増減実数 (町)	増減率 (%)	増減実数 (町)	増減率 (%)		
全 国	-0.142	+47,917.6	+1.719	+24,598.8	+0.882	+0.184	
北 海 道	+0.417	+71,219.0	+17.241	+64,234.1	+15.550	+0.685	
東 北	青 森	+0.878	+2,602.4	+4.486	+2,197.1	+3.788	+1.514
	岩 手	+0.330	-6,644.9	-12.581	-3,796.1	-7.396	+0.780
	宮 城	+0.995	+9,102.0	+13.452	+9,279.3	+13.714	+0.488
	秋 田	+0.676	+9,247.3	+12.373	+6,024.8	+8.061	-0.125
	山 形	+1.157	+9,093.3	+13.753	+9,020.6	+13.625	+0.113
	福 島	-0.746	+6,590.0	+9.614	+6,565.8	+9.579	+0.702
計	+0.525	+29,900.1	+7.760	+29,291.5	+7.579	+0.522	
北 陸	新 潟	+0.183	+941.6	+0.682	-1,560.6	-1.130	+0.970
	富 山	-0.219	+6,150.2	+12.377	+2,316.7	+4.662	-0.086
	石 川	-0.149	-1,974.9	-5.750	-2,371.8	-6.906	+1.046
	福 井	-0.297	+460.3	+1.650	+367.2	+1.316	+0.064
計	+0.002	+5,577.2	+2.230	-1,248.5	-0.499	-0.014	
関 東	茨 城	-0.138	+4,389.4	+4.139	+818.5	+0.772	+0.839
	栃 木	+0.632	+10,067.6	+16.923	+6,747.0	+11.342	+0.324
	群 馬	+0.472	+1,158.0	+2.396	-2,234.3	-4.622	+2.103
	埼 玉	+0.152	+4,379.0	+5.670	+2,474.9	+3.204	-0.071
	千 葉	-0.408	+1,497.3	+1.597	+2,548.3	+2.719	+0.029
	東 京	+0.620	-2,626.8	-9.603	-2,658.1	-9.718	-0.473
	神 奈 川	-0.820	-956.5	-2.781	-395.7	-1.151	-0.397
計	+0.008	+17,908.0	+4.010	+7,300.6	+1.635	+0.397	
東 山	山 梨	-0.916	-3,675.6	-11.740	-3,668.0	-11.716	-0.286
	長 野	+0.176	-9,696.9	-12.896	-5,485.4	-7.295	-0.264
	計	-0.158	-13,372.5	-12.556	-9,153.4	-8.595	-0.270
東 海	岐 阜	-0.036	-4,594.0	-8.819	-4,851.4	-9.314	-0.695
	静 岡	-0.296	-6,832.0	-10.490	-6,804.5	-10.448	+0.601
	愛 知	-1.428	+3,113.9	+4.394	+4,330.5	+6.111	-0.755
	三 重	-0.746	-1,411.2	-3.233	-77.7	-0.178	-1.109
計	-0.754	-9,723.3	-4.196	-7,403.1	-3.195	-0.459	

△ノット▽

昭和初期、農業構造変動の「統計的」考察

(前頁よりつづき)

	大正12~昭和3年における増減率 (%)	昭和3年~農業調査 農林省統計		昭和3年~昭和4年 農林省統計		昭和4~9年における増減率 (%)	
		増減実数 (町)	増減率 (%)	増減実数 (町)	増減率 (%)		
近畿	滋賀	-0 702	+2,617 3	+7 877	+2,274 2	+6 844	-0 620
	京都	-1 157	-262 2	-0 993	-425 0	-1 610	-0 712
	大阪	-0 300	-3,353.4	-8 306	-3,018 0	-7.475	-1 307
	兵庫	-1.309	-351.7	-0.522	-2,199 7	-3 264	-0.584
	奈良	-0.918	-169.3	-0.805	-496 2	-2 361	-0.383
	和歌山	-0.501	+1,106.4	-5.528	+63.3	+0 316	+0 012
	計	-0 892	-412 9	-0.198	-3,801 4	-1 824	-0 662
中国	鳥取	-0 804	+58 5	+0 199	-269 2	-0 918	+0 172
	島根	-0 404	-4,127 5	-8 888	-4,090 5	-8.808	-0 538
	岡山	-1.119	+343 2	+0 627	+304 4	+0.556	-0.579
	広島	-0 697	-1,512.2	-3 409	-697 3	-1.572	-0 421
	山口	-0 648	-582 7	-1.314	-1,261 7	-2 851	-0.179
	計	-0 748	-5,820 7	-2 656	-6,014 3	-2.745	-0 355
四国	徳島	-0 330	-1,802.0	-7.997	-1,340 5	-5 949	+0 186
	香川	-1.246	+33.6	+0 104	-474 4	-1.470	+0 022
	愛媛	-1 551	-5,803.5	-12.719	-5,649 0	-12 380	-0.500
	高知	-4 073	-1,730 5	-6 229	-1,729.4	-6 225	-0 135
	計	-2.056	-9,302.4	-7.255	-9,193 3	-7.170	-0.158
九州	福岡	-0 527	-4,786.9	-6 296	-4,122 1	-5 421	-0 530
	佐賀	-0.447	+615.7	+2 020	+234 1	+0.768	+0 101
	長崎	-0 111	-1,862.3	-5 787	-1,989 3	-6 181	+0 838
	熊本	+0 846	-7,352.7	-8 725	-9,925 6	-11.778	+0 271
	大分	-0 968	-3,573 2	-8 827	-2,414 3	-5 964	+0 643
	宮崎	+1.760	-5,219 3	-12 184	-5,118 4	-11 949	+0 433
	鹿児島	-1.228	-17,661.7	-21 127	-17,365.7	-20 773	+1.894
	計	-0 182	-39,840.4	-10 219	-40,701.3	-10.439	+0 508
沖	繩	+0.420	+1,695.3	+21.203	+1,287 9	+16 108	-2.791

(IV) 田 小 作 地 面 積

▲ノート▼

昭和初期、農業構造変動の「統計的」考察

一七二

	大正12~昭和3年における増減率	昭和3年農林省統計	~農業調査	昭和3年農林省統計	昭和4年農林省統計	昭和4~8年における増減率	
	(%)	増減実数(町)	増減率(%)	増減実数(町)	増減率(%)	(%)	
全 国	+0.263	+156,562.6	+0.975	+106,842.1	+0.666	+0.003	
北 海 道	+10.056	+25,670.9	+25.117	+23,890.3	+23.374	+1.489	
東 北	青森	+1.127	+5,761.5	+16.333	+3,673.1	+10.413	+1.063
	岩手	+0.124	+2,037.3	+8.954	+2,290.3	+10.063	+1.533
	宮城	+0.981	+10,444.4	+21.248	+10,587.1	+21.538	+0.301
	秋田	+1.147	+10,910.0	+17.251	+7,430.4	+11.749	-0.125
	山形	+1.438	+10,542.2	+21.067	+10,499.8	+20.982	-0.036
福 島	+2.476	+8,438.2	+20.352	+8,314.2	+20.053	-0.136	
計	+1.274	+48,133.6	+18.377	+42,794.9	-16.338	+0.263	
北 陸	新 潟	+0.342	+8,619.7	+8.173	+6,011.0	+5.699	-0.066
	富 山	-0.008	+7,889.4	+17.589	+3,911.3	+8.720	-1.208
	石 川	-0.051	+1,481.7	+5.680	+972.7	+3.729	+0.662
	福 井	+0.085	+1,185.6	+4.982	+718.7	+3.020	-0.098
計	+0.180	+19,176.4	+9.578	+11,613.7	+5.801	-0.240	
関 東	茨 城	+0.232	+9,745.0	+21.070	+4,698.2	+10.158	+0.472
	栃 木	+0.612	+7,816.5	+24.030	+5,825.7	+17.910	-0.066
	群 馬	-0.198	+3,723.8	+23.304	-1,729.3	-10.822	+5.474
	埼 玉	+0.018	+5,660.9	+15.772	+3,227.9	+8.993	-0.027
	千 葉	-0.146	+4,270.7	+7.876	+3,651.1	+6.733	+0.021
	東 京	-2.592	+321.6	+4.598	+307.9	+4.402	-2.845
	神 奈 川	-0.423	+439.5	+3.731	+249.0	+2.114	-1.234
計	-0.032	+31,978.0	+15.703	+16,230.5	+7.970	+0.291	
東 山	山 梨	-0.342	-803.2	-6.118	-794.4	-6.051	-0.941
	長 野	-0.720	-486.4	-1.417	-1,585.8	-4.620	+0.745
	計	-0.617	+1,289.6	-2.718	-2,380.2	-5.016	+0.284
東 海	岐 阜	-0.650	-9.6	-0.003	-204.4	-0.590	+1.344
	静 岡	-0.805	+538.8	+1.644	+553.8	+1.690	-1.279
	愛 知	-1.681	+4,224.0	+8.937	+2,845.3	+6.020	-0.489
	三 重	-1.473	-229.4	-0.701	-347.6	-1.062	-0.805
	計	-1.208	+4,523.8	+3.069	+2,847.1	+1.932	-0.312

(次頁へつづく)

(前頁よりつづき)

	大正13~昭和3年における増減率 (%)	昭和3年~農業調査農林省統計		昭和3年~昭和4年農林省統計		昭和4~8年における増減率 (%)	
		増減実数 (町)	増減率 (%)	増減実数 (町)	増減率 (%)		
近畿	滋賀	-0.660	+3,132.9	+10.460	+2,680.6	+8.950	-0.659
	京都	-1.078	-484.4	-2.254	-689.1	-3.206	-0.716
	大阪	-0.440	-2,197.9	-6.473	-2,135.9	-6.290	-1.193
	兵庫	-1.637	+2,313.8	+4.081	+116.2	+0.206	-0.666
	奈良	-0.876	-547.5	-3.035	-1,239.5	-6.871	-0.043
	和歌山	-1.040	-189.4	-1.185	-788.4	-4.933	-0.314
計	-1.051	+2,027.5	+1.151	-2,056.1	-1.167	-0.676	
中国	鳥取	-0.641	+469.5	+2.246	-716.2	-3.427	-0.007
	島根	-0.313	+1,407.8	+4.411	+1,023.5	+3.207	-0.673
	岡山	-1.083	+1,846.0	+4.246	+1,047.3	+2.409	-0.898
	広島	-0.678	+1,818.5	+5.626	+1,865.7	+5.772	-0.311
	山口	-0.406	+2,775.3	+7.913	+1,625.0	+4.633	-0.403
	計	-0.656	+8,317.1	+5.081	+4,845.3	+2.960	-0.520
四国	徳島	-0.851	-185.4	-1.298	-35.9	-0.251	-0.689
	香川	-1.397	+554.2	+2.070	-34.5	-0.129	-0.224
	愛媛	-0.789	+1,355.9	+5.096	+780.7	+2.934	-1.323
	高知	-0.667	+451.2	+2.719	+450.9	+2.717	-0.183
	計	-0.974	+2,175.9	+2.582	+1,161.2	+1.378	-0.645
九州	福岡	-0.727	-268.4	-0.440	-256.1	-0.420	-0.770
	佐賀	-0.267	+1,833.7	+7.456	+1,121.0	+4.558	-0.109
	長崎	+0.143	+1,832.0	+12.378	+11,071.6	+7.240	-0.070
	熊本	-0.144	+7,451.7	+18.160	+1,784.7	+4.349	+1.073
	大分	-0.299	+769.0	+2.798	+460.6	+1.676	+0.353
	宮崎	+1.308	+1,480.8	+7.076	+965.4	+4.613	+0.097
	鹿児島	+0.765	+2,888.2	+10.472	+2,888.9	+10.474	+0.394
計	-0.086	+15,987.0	+7.353	+8,036.1	+3.696	+0.086	
沖繩	-0.009	-137.9	-12.675	-140.6	-12.923	-1.084	

地面積等の変化〔山形県、飽海郡町村別表〕

面 積

増 減 実 数 (町)			増 減 年 率 (%)		
大正15~ 昭和3年	昭和3~4年	昭和4~9年	大正15~ 昭和3年	昭和3~4年	昭和4~9年
+953.5	+5,477.4	-1,935.1	+0.35	+4.03	-0.28
+14.2	+1,382.7	-547.0	+0.02	+3.01	-0.23
+8.8	+442.0	-348.9	+0.01	+1.46	-0.23
+470.8	+183.6	+0.8	+0.69	+1.27	+0.00
+459.7	+3,469.0	-1,039.9	+0.52	+7.70	+0.43
+208.0	+1,790.3	-438.4	+0.53	+9.00	+0.41
+226.3	+590.3	-198.5	+1.21	+6.18	-0.39
+45.0	+997.7	-332.1	+0.16	+7.09	-0.44
0	-3.3	-2.4	0	-4.45	+0.35
-66.6	+20.5	-6.8	-6.53	+4.62	+0.20
-0.1	+45.3	-8.7	-0.01	+7.83	-0.35
0	+60.1	-93.5	0	+9.16	-2.91
-5.5	+25.9	-31.2	-0.92	+8.84	-2.37
+50.3	+81.4	-8.0	+2.54	+7.82	-0.18
+1.3	-1.6	+7.6	+0.08	+0.20	-0.25
+51.7	+2.1	-0.1	+3.43	+0.26	+0.00
-47.7	+4.5	+89.8	-2.31	+0.46	+2.09
+4.2	-29.7	+2.9	+0.39	-5.46	+0.14
+126.7	-97.0	-2.8	+9.17	-11.87	-0.09
-44.6	+52.0	-36.3	-2.32	+5.68	-0.94
-22.2	+55.3	-0.2	-2.53	+13.29	-0.01
0	+39.9	-8.4	0	+40.04	0
-17.1	+24.1	-3.3	-3.16	+9.51	-0.30
+17.4	-93.5	-58.8	+3.16	+31.94	-3.89
-0.5	+27.4	-21.3	-0.03	+3.23	+0.21
+7.5	+44.4	-1.1	+0.70	+8.12	-0.03
+0.2	+74.6	+3.7	+0.01	+10.71	+0.49
-19.9	+156.2	-1.7	-5.18	+90.76	-0.01
+13.9	+138.6	-0.9	+0.82	+16.12	-0.02
-2.5	+89.1	-87.9	-0.18	+13.03	-2.84
-2.2	+61.1	-56.0	-0.16	+8.97	-2.17
-0.3	+33.8	+2.6	-0.07	+15.20	+0.38
+0.2	+0.2	+1.2	+0.23	+0.46	+0.69

▲ノード▼

昭和初期、農業構造変動の「統計的」考察

記載がない

附表Ⅱ 昭和4年『農業調査』を前後する時期の耕地

(I) 総 耕 地

	実 数 (町)			
	大正 15 年	昭 和 3 年	昭 和 4 年	昭 和 9 年
山 形 県	134,915 2	135,868 7	141,346 1	139,411 0
村山地方	45,992 7	46,006.9	47,389 6	46,842 6
置賜地方	30,373.2	30,382 0	30,824 0	30,475 1
最上地方	13,956 1	14,426 9	14,610 5	14,611 3
庄内地方	44,593 2	45,052 9	48,521 9	47,482 0
東田川郡	19,678.8	19,886.8	21,677.1	21,238 7
西田川郡	9,320 0	9,546.3	10,136 6	9,938 1
飽海郡	14,021.3	14,066 3	15,064.0	14,731.9
松嶺町	74 2	74.2	70.9	73 3
上郷村	510 4	443 8	464.3	457 5
内郷村	578 4	578 3	623 6	614.9
田沢村	656 3	656 3	716 4	622 9
北沢村	298 5	293 0	318 9	287 7
南平田村	990 7	1,041 0	1,122 4	1,114 4
東平田村	799 1	800.4	798 8	791 2
北平田村	752 7	804.4	806.5	806 4
中平田村	1,031 4	983 7	988 2	1,078 0
西平田村	540 1	544 3	514 6	517 5
上田村	690 8	817 5	720 5	717 7
本楯村	959 8	915 2	967.2	930 9
一糸村	438.3	416.1	471 4	471.2
観音寺村	397 5	397.5	437 4	429.0
大沢村	270 6	253 5	277.6	274 3
日向村	275 3	292 7	386 2	327 4
西荒瀬村	847.7	847 2	874 6	853.3
南遊佐村	539 6	547 1	591 5	590 4
稻川村	696 7	696.9	771 5	775 2
西遊佐村	192.0	172 1	328 3	326.6
遊佐村	846 0	859.9	998 5	997.6
藤岡村	686 2	683 7	772 8	684 9
高瀬村	683.3	681 1	742 2	686.2
吹浦村	222 7	222 4	256.2	258.8
飛鳥村	43 0	43 2	43 4	44 6

注 1 『山形県統計書』による。なお同書の場合町村別統計は大正15年以降しか

2 庄内地方には鶴岡・酒田市を含み、郡別数値にはそれを含まない。

面積

ノ
ト
▽

昭和初期、農業構造變動の「統計的」考察

一七六

増減実数(町)			増減年率(%)		
大正15~ 昭和3年	昭和3~4年	昭和4~9年	大正15~ 昭和3年	昭和3~4年	昭和4~9年
+706.1	+6,995.3	-1,969.7	+0.38	+7.47	-0.39
-86.2	+1,285.7	-411.9	-0.17	+5.03	-0.31
+40.0	+376.0	-369.2	+0.10	+1.81	-0.35
+93.6	+1,072.7	-239.9	+0.49	+11.01	-0.44
+858.7	+4,060.2	-938.0	+1.17	+10.77	-0.45
+207.7	+2,110.2	-424.2	+0.60	+11.94	-0.43
+264.8	+933.3	-136.6	+1.99	+13.49	-0.35
+384.2	+898.4	-294.9	+1.67	+7.58	-0.46
0	+0.7	-0.2	0	+1.61	-0.90
+57.8	+55.4	+3.8	+11.72	+18.20	+0.49
+4.1	+53.2	-10.2	+0.49	+12.59	-0.54
0	+57.6	-76.2	0	+13.75	-4.00
-5.2	+34.5	-25.9	-1.25	+16.94	-2.61
+99.1	+142.1	+1.0	+7.10	+17.84	0
0	+5.2	-11.0	0	+0.72	-0.40
+51.7	+0.3	0	+3.49	+0.04	+0.00
-21.4	+4.8	+84.9	-1.09	+0.50	+1.70
+4.2	-1.7	-0.3	+0.43	-0.34	-0.02
+35.2	-0.7	-1.1	+2.61	-0.10	-0.04
-14.2	+50.1	-35.9	-0.82	+5.87	-0.99
-5.7	+29.3	-0.9	-0.69	+7.22	-0.05
0	+56.2	-8.3	0	+16.95	+0.00
-14.1	+44.7	-2.8	-3.71	+25.44	-0.32
-12.6	+92.4	-58.1	+2.74	+38.06	-4.43
-0.6	+43.3	-18.5	-0.05	+7.07	+0.39
+6.5	+44.7	-0.9	+0.69	+9.35	-0.08
0	+72.5	+3.0	0	+11.04	+0.50
-33.9	+2.1	-1.6	-34.59	+13.91	0
+15.2	+144.1	+1.6	+1.00	+18.59	+0.02
-2.5	+89.2	-83.2	-0.20	+14.64	-2.98
-4.6	+62.0	-52.8	-0.43	+11.65	-2.58
-0.1	+16.1	-1.0	-0.06	+17.63	-0.19
+0.1	0	0	+2.94	0	0

(II) 田 總

	実 数 (町)			
	大正 15 年	昭和 3 年	昭和 4 年	昭和 9 年
山 形 県	92,944 0	93,650 1	100,645. 4	98,675 7
{ 村山地方	25,660 1	25,573 9	26,859 6	26,447 7
{ 置賜地方	20,794 6	20,834 6	21,210 6	20,831. 4
{ 最上地方	9,651 7	9,745 3	10,818.0	10,578 1
{ 庄内地方	36,837 6	37,696 3	41,756.5	40,818.5
{ 東田川郡	17,468 2	17,675.9	19,786. 1	19,361 9
{ 西田川郡	6,652 3	6,917 1	7,850 4	7,713 8
{ 飽海郡	11,472 7	11,856 9	12,755 3	12,460 4
{ 松嶺町	43 6	43 6	44 3	44. 1
{ 上郷村	143 6	304 4	359.8	363 6
{ 内郷村	418 4	422.5	475. 7	465.5
{ 田沢村	418 9	418 9	476. 5	400.3
{ 北俣村	208 9	203 7	238 2	212 3
{ 南平田村	697 5	796 6	938 7	939 7
{ 東平田村	726 0	726 0	731.2	720.2
{ 北平田村	741.7	793 4	793 7	793.7
{ 中平田村	981.4	960 0	964.8	1,049 7
{ 西平田村	492 6	496 8	495. 1	494.8
{ 上田村	674 2	709.4	708 7	707.6
{ 本楯村	867.4	853 2	903 3	867 4
{ 一条村	411.4	405.7	435 0	434 1
{ 観音寺村	331 6	331.6	387 8	379 5
{ 大沢村	189.8	175 7	220.4	217.6
{ 日向村	230 2	242 8	335 2	277. 1
{ 西荒瀬村	612 8	612 2	655 5	637 0
{ 南遊佐村	471 7	478 2	522 9	522 0
{ 稻川村	656.7	656 7	729 2	732 2
{ 西遊佐村	49.0	15 1	17.2	15.6
{ 遊佐村	760 0	775 2	919 3	920.9
{ 蔵岡村	612.5	610 0	699.2	616 0
{ 高瀬村	536 7	532 1	594 1	541.3
{ 吹浦村	91.4	91.3	107.4	106 4
{ 飛鳥村	1.7	1.8	1.8	1.8

△ノート▽

昭和初期、農業構造變動の「統計的」考察

地 面 積

増 減 実 数 (町)			増 減 年 率 (%)		
大正15~ 昭和3年	昭和3~4年	昭和4~9年	大正15~ 昭和3年	昭和3~4年	昭和4~9年
+2,457.9	+9,118.3	-1,150.6	+1.93	+13.78	-0.31
+181.2	+1,993.4	-249.6	+0.37	+8.13	-0.19
+756.1	+1,958.6	-75.4	+3.13	+15.27	-0.10
+455.8	+1,877.9	-294.5	+3.92	+29.93	-0.72
+1,064.8	+3,288.4	-531.1	+2.48	+14.57	-0.41
+270.3	+1,548.2	-185.6	+1.30	+14.53	-0.30
+434.0	+767.5	+83.0	+5.52	+17.59	+0.32
+376.0	+822.1	-372.5	+3.06	+12.62	-1.02
0	-1.0	-24.0	0	-2.27	-14.77
-32.9	+27.3	-21.3	-5.60	+16.77	-2.38
+1.7	+30.9	-23.9	-0.21	+11.19	-1.95
0	+27.0	-62.6	0	+18.54	-7.59
-9.5	+13.8	-15.3	-4.22	+21.07	-4.77
+87.1	+21.0	+9.3	+7.13	+4.25	+0.45
-2.3	-12.7	+2.9	-0.20	-3.30	+0.36
+32.3	+23.4	-1.4	+2.10	+4.29	-6.07
+112.2	+43.4	-15.0	+7.67	+7.31	-0.66
+4.2	-31.9	+3.1	+0.38	-8.49	+0.23
+18.5	+2.4	-26.7	+1.49	+0.55	-1.35
+144.2	+78.6	-49.9	+14.13	+16.23	-2.79
+2.3	+67.2	-28.5	+0.34	+29.44	-2.75
-11.0	+0.5	+8.7	-1.63	+0.23	+1.16
+4.8	+33.5	-0.8	+10.32	+165.03	-0.37
+4.6	+39.2	-9.1	+7.30	+153.13	-3.82
0	+126.4	-13.6	0	+36.51	+0.75
+5.2	+20.8	+6.4	+0.64	+7.52	+0.42
-5.8	+23.2	+6.0	-0.76	+9.30	+0.55
-0.3	+46.9	-5.6	-0.15	+70.32	-0.02
+12.3	+149.6	+2.1	+1.26	+44.37	+0.11
-29.0	+165.9	-87.1	-3.44	+65.89	-5.21
+2.0	-50.7	-29.3	+0.18	+13.28	-2.81
-0.5	+12.6	+2.4	-0.24	+18.42	+0.74
+35.9	-35.0	+0.5	?	?	+1.95

ノット

昭和初期、農業構造変動の「統計的」考察

(III) 総 小 作

	実 数 (町)			
	大正 15 年	昭和 3 年	昭和 4 年	昭和 9 年
山 形 県	63,721 0	66,178 9	75,297 2	74,146 6
村 山 地 方	24,326 1	24,507 3	26,500 7	26,251 1
置 賜 地 方	12,069 2	12,825.3	14,783.9	14,708 5
最 上 地 方	5,818.8	6,274 6	8,152 5	7,858 0
庄 内 地 方	21,506 9	22,571 7	25,860 1	25,329 0
{ 東 田 川 郡	10,384 0	10,654 3	12,202 5	12,016 9
{ 西 田 川 郡	3,930 0	4,364 0	5,131 5	5,241 5
{ 飽 海 郡	6,137 9	6,513 9	7,336 0	6,963.5
{ 松 嶺 町	44 0	44 0	43 0	19 0
{ 上 郷 村	195.7	162 8	190 1	168 8
{ 内 郷 村	274 4	276 1	307.0	283 1
{ 田 沢 村	145 6	145 6	172 6	110 0
{ 北 俣 村	57 0	65.5	79.3	64.0
{ 南 平 田 村	407 0	494 1	515 1	524.4
{ 東 平 田 村	387.1	384 8	372 1	375 0
{ 北 平 田 村	512 8	545 1	568 5	567 1
{ 中 平 田 村	481 4	593 6	637 0	622 0
{ 西 平 田 村	371 5	375 7	343 8	346 9
{ 上 田 村	415 2	433 7	436 1	409 4
{ 本 楯 村	340 1	484 3	562.9	513 0
{ 一 条 村	226 0	228 3	295 5	267 0
{ 観 音 寺 村	225.7	214 7	215 2	223 9
{ 大 沢 村	15.5	20 3	53 8	53 0
{ 日 向 村	21.0	25 6	64 8	55 7
{ 西 荒 瀬 村	346.2	346 2	472 6	459 0
{ 南 遊 佐 村	271.5	276 7	297 5	303 9
{ 稻 川 村	255.3	249 5	272 7	278.7
{ 西 遊 佐 村	67 0	66 7	113 6	108.0
{ 遊 佐 村	324 9	337 2	486 8	488 9
{ 蔵 岡 村	280 8	251 8	417 7	330 6
{ 高 瀬 村	379.8	381 8	331.1	301.8
{ 吹 浦 村	68.9	68 4	81 0	83 4
{ 飛 鳥 村	5.5	(?)41 4	6 4	6.9

地 面 積

増 減 実 数 (町)			増 減 年 率 (%)		
大正15~ 昭和3年	昭和3~4年	昭和4~9年	大正15~ 昭和3年	昭和3~4年	昭和4~9年
+1,874.3	+10,603.2	-1,839.4	+1.95	+21.22	-0.61
+44.4	+2,954.2	-736.1	+0.14	+19.47	-0.81
+577.6	+2,086.1	-289.8	+3.07	+20.98	-0.48
+322.7	+1,719.3	-219.8	+3.54	+35.23	-0.67
+929.6	+3,853.6	-593.7	+2.44	+19.32	-0.50
+233.6	+1,808.8	-156.6	+1.24	+18.73	-0.27
+415.6	+940.6	+6.4	+6.47	+25.94	+0.02
+283.1	+945.5	-366.1	+2.58	+16.36	-1.09
0	-4.1	-18.3	0	-10.82	-14.57
+15.9	+28.1	-19.3	+7.32	+22.57	-3.06
+19.8	+49.1	-24.8	+4.62	+20.97	-2.19
0	+24.8	-69.3	0	+18.29	-10.68
-8.7	+13.8	-10.4	-6.41	+23.31	+3.39
-53.9	+117.6	+3.0	-6.75	+34.06	+0.16
-3.4	-2.3	+0.7	-0.46	-0.63	+0.15
+32.3	+19.6	-1.3	+3.15	+3.60	-5.99
+131.0	+45.0	-14.4	+14.51	+7.73	-0.74
+4.2	-14.5	-0.3	+0.61	-4.17	-0.02
+3.9	+17.3	-25.2	+0.47	+4.15	-1.29
+155.9	+78.1	-40.3	+25.12	+16.75	-2.50
+5.2	+49.6	-19.4	+1.17	+21.82	-1.90
+10.0	-9.4	+8.7	-2.24	-4.42	+1.23
+4.7	+29.7	0	+18.95	+173.68	0
+1.5	+37.9	-9.4	+4.05	+189.50	-4.40
0	+135.6	-23.0	0	+52.76	+0.36
+5.0	+26.2	+4.8	+1.03	+10.57	+0.37
-5.2	+21.5	+5.2	-1.05	+8.86	+0.49
-5.3	+3.5	-5.3	-14.72	+35.43	-32.72
+13.8	+137.4	+3.1	+2.29	+43.52	+0.17
-24.2	+154.2	-81.8	+4.50	+63.07	-5.13
+1.0	-31.8	-28.5	+0.17	-10.81	-3.47
-0.1	+18.1	-0.5	-0.17	+62.20	-0.27
-0.3	+0.4	0	?	?	?

ノット

昭和初期、農業構造変動の「統計的」考察

(IV) 田 小 作

	実 数 (町)			
	大正 15 年	昭和 3 年	昭和 4 年	昭和 9 年
山 形 県	48,105.6	49,980.9	60,584.1	58,744.7
村山地方	15,129.2	15,173.6	18,127.8	17,391.7
置賜地方	9,404.1	9,981.7	12,057.8	11,768.0
最上地方	4,557.4	4,880.1	6,599.4	6,379.6
庄内地方	19,015.9	19,945.5	23,799.1	23,205.4
東田川郡	9,425.1	9,658.7	11,467.5	11,310.9
西田川郡	3,210.8	3,626.4	4,567.0	4,573.4
飽海郡	5,497.0	5,780.1	6,725.6	6,359.5
松嶺町	37.9	37.9	33.8	15.5
上郷村	108.6	124.5	152.6	133.3
内郷村	214.4	234.2	283.3	258.5
田沢村	135.6	135.6	160.4	91.1
北俣村	67.9	59.2	73.0	62.6
南平田村	399.2	345.3	462.9	465.9
東平田村	368.0	364.6	362.3	363.0
北平田村	512.1	544.4	564.0	562.7
中平田村	451.4	582.4	627.4	613.0
西平田村	343.8	348.0	333.5	333.2
上田村	412.7	416.6	433.9	408.7
本楯村	310.3	466.2	544.3	504.0
一条村	222.1	227.3	276.9	257.5
観音寺村	222.9	212.9	203.5	212.2
大沢村	12.4	17.1	46.8	46.8
日向村	18.5	20.0	57.9	48.5
西荒瀬村	257.0	257.0	392.6	369.6
南遊佐村	243.0	248.0	274.2	279.0
稻川村	248.0	242.8	264.3	269.5
西遊佐村	18.0	12.7	16.2	10.9
遊佐村	301.9	315.7	453.1	456.2
葦岡村	268.7	244.5	398.7	316.9
高瀬村	293.1	294.1	262.3	233.8
吹浦村	29.2	29.1	47.2	46.7
飛鳥村	0.3	-	0.4	0.4

▲ノート▼

昭和初期、農業構造変動の「統計的」考察